

大府市ヤングケアラーに関するアンケート調査 結果報告書【概要版】

1. 調査概要

調査目的	○本市では令和4年度から愛知県のヤングケアラー支援モデル事業を受託し、ヤングケアラー本人および家族への支援事業を実施しています。本市のヤングケアラーに係る現状及び課題を顕在化させるとともに、支援施策の策定についての基礎資料とすること、さらには、アンケートの回答者が、アンケートへの回答を通じてヤングケアラーの現状及び課題についての認識を深められるとともに、支援の必要性について思索する契機とすることを目的に、子どもを対象に調査を実施しました。																			
調査対象	○調査対象は、大府市内の公立の小学校、中学校及び高等学校に在籍する児童生徒（小学5年生、中学2年生、高等学校2年生）全員です。																			
調査期間	○令和6年11月～令和7年1月																			
調査方法	○調査の回答URL（二次元コード）を記載したものを直接配布し、WEB上で回収を行いました。																			
回収状況	<table><tr><th>調査対象者</th><th>配布数（件）</th><th>有効回答数（件）</th><th>有効回答率（％）</th></tr><tr><td>小学5年生</td><td>954</td><td>835</td><td>87.5％</td></tr><tr><td>中学2年生</td><td>926</td><td>803</td><td>86.7％</td></tr><tr><td>高校2年生</td><td>614</td><td>289</td><td>47.1％</td></tr></table>				調査対象者	配布数（件）	有効回答数（件）	有効回答率（％）	小学5年生	954	835	87.5％	中学2年生	926	803	86.7％	高校2年生	614	289	47.1％
調査対象者	配布数（件）	有効回答数（件）	有効回答率（％）																	
小学5年生	954	835	87.5％																	
中学2年生	926	803	86.7％																	
高校2年生	614	289	47.1％																	

2. ヤングケアラーの疑いのある子どもの状況

2-1 ヤングケアラーの疑いのある子どもについて

子どもの調査結果より、『現在家族の中にお世話をする必要のある人のうち、自身がお世話をしている子ども』は、小学5年生では40件（全体比4.8％）、中学2年生では10件（全体比1.2％）、高校2年生では4件（全体比1.4％）となっています。この項目の該当者をヤングケアラーの疑いのある子どもとして、学年別に特性や課題について整理しました。

学年	回答者数 (件)	家族の中にお世話が 必要な人がある子ども	家族の中にお世話が 必要な人がある子どものうち、 自身がお世話をしている子ども
小学5年生	835	88件（10.5％）	40件（45.5％）/全体比（4.8％）
中学2年生	803	32件（4.0％）	10件（31.3％）/全体比（1.2％）
高校2年生	289	10件（3.5％）	4件（40.0％）/全体比（1.4％）

2-2 ヤングケアラーの疑いのある子どもの特性

※小学5年生では、お手伝いの範囲で回答している場合がありますが、お世話での負担感（つらさ）を抱えている子どももあり、ヤングケアラーの疑いのある子どもが一定数いることがうかがえます。

- お世話の対象は、すべての学年で、下のきょうだいが多いですが、「母親」「父親」「祖母」「祖父」「兄・姉」といった自分よりも年齢が上の家族も対象としてお世話をしている状況がうかがえます。
- お世話をしている状況・理由では、小学5年生と中学2年生では「幼い」が多くなっており、高校2年生では「高齢」「認知症」が多くなっています。また、どの学年も「日本語が苦手」な外国にルーツのある家族や、病気を抱えている家族のお世話をしている子どもがいます。
- お世話の内容では、どの学年も「見守り」が最も多くなっています。小学5年生では「お風呂やトイレのお世話」「家事」と自宅でのお世話の内容が多いですが、中学2年生と高校2年生では「外出の付き添い」「きょうだいの世話や保育所等への送迎」の回答も多く、学年が上がるにつれてお世話の内容の幅が広がっていることがうかがえます。
- お世話の頻度について、どの学年も週に2日以上お世話をしている子どもが多くなっています。そのうち、週に6日以上、あるいは1日あたり6時間以上の時間をお世話にかけている子どももいます。お世話によって自分の時間が自由にとれない状況にある子どもが一定数いると考えられます。
- お世話を始めた時期について、どの学年も「1年前から」の子どもが半数以上います。
- お世話をすることのつらさ・悩みについて、体力面で“つらい”と感じている子どもはどの学年も多くはいませんが、それぞれ1割程度います。また、気持ち面で“つらい”と感じている子どもについても、どの学年も1割程度います。中学2年生と高校2年生では、体力面でつらさを抱えている子どもより、気持ち面でつらさを抱えている子どもが1人ずつ多くなっています。学年が上がるにつれて、お世話をしている状況や内容が幅広くなっていますが、最近になってお世話を始めた子どもも多いため、慣れないお世話の負担から気持ち面に影響が出ている可能性があります。
- お世話についての相談経験について、どの学年も「ない」が多くなっています。特に高校2年生は全員が「ない」と回答しており、つらさを抱えている子どもがいるものの、相談をしていない・できていない状況があります。このことから、子ども本人から声を上げるとは限らないため、周りの大人が子どもの小さな変化に気付くことができるように意識する必要があるといえます。
- お世話について相談したことがある子どもの相談相手として、小学5年生と中学2年生では「家族」「友達」「学校の先生」が主に挙がっており、身近な人が相談相手になっています。
- 学校以外で相談できる場所について、中学2年生では「大府市役所」「こども家庭センター」「大府市のLINE相談窓口」「児童（老人福祉）センター」等の回答がありました。一方で、「どれも知らない」と回答した子どももあり、高校2年生ではほとんどが相談場所の存在について知らない状況があります。
- 学校や周りの大人にしてもらいたいことでは、小学5年生と中学2年生では学習面や家庭の金銭面等への支援を必要とする回答がありました。一方で、高校2年生では全員が「特にない」と回答しており、最近お世話を始めたことや、相談経験がないことも関連していると考えられ、周りからはお世話の負担感が見えづらい状態であることがうかがえます。

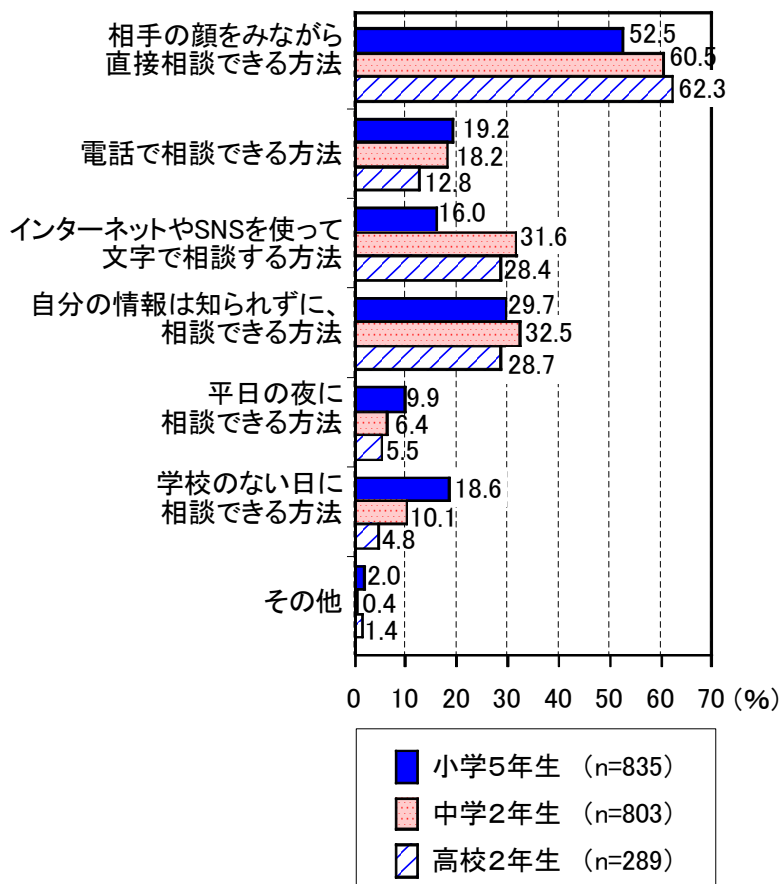
表 ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況

項目	主な回答・傾向		
	小学5年生(40件)	中学2年生(10件)	高校2年生(4件)
お世話の対象	「弟・妹」(28件) 「母親」(8件) 「父親」「兄・姉」(6件)	「弟・妹」(6件) 「祖母」(2件) 「父親」「母親」(それぞれ1件)	「祖母」(2件) 「祖父」「弟・妹」(それぞれ1件)
お世話をしている人の状況	「幼い」(22件) 「仕事でいそがしい」(6件) 「食事や身の回りのお世話が 必要」「日本語が苦手」 (それぞれ4件)	「幼い」(5件) 「高齢」(2件) 「知的障がい」「精神疾患」 「依存症」「日本語が苦手」 (それぞれ1件)	「高齢」「認知症」(3件) 「要介護」(2件) 「幼い」「日本語が苦手」(そ れぞれ1件)
お世話の内容	「見守り」(24件) 「お風呂やトイレのお世話」 (16件) 「家事(食事の準備や掃除、 洗濯)」(12件)	「見守り」(6件) 「外出の付き添い(買い物、 散歩など)」(5件) 「きょうだいの世話や保育 所等への送迎など」(4件)	「見守り」(3件) 「家事(食事の準備や掃除、 洗濯)」(2件) 「外出の付き添い(買い物、 散歩など)」、「通院の付き 添い」(それぞれ1件)
お世話の 頻度	・週に2日以上が9割(39人)、 うち週6日以上が15人 ・1日あたり6時間以上が1 割(4人)	・週に2日以上が8人、うち 週6日以上が5人 ・1日あたり6時間以上が2人	・週に2日以上が2人 ・1日あたり6時間以上が2人
お世話を 始めた時期	・1年前から(小学4年生以 降):5割(21人) ・1年以上前から(小学3年 生以前):2割(9人)	・1年前から(中学1年生以 降):5人 ・1年以上前から(小学6年 生以前):5人	・1年前から(高校1年生以 前):3人 ・1年以上前から(中学3年 生以前):1人
お世話を 一緒にする人	いない 1割(3人)	いない 全員	
お世話をす ることのつらさ・ 悩み(体力)	“つらい”1割(5人)	“つらい”2人	“つらい”1人
お世話をす ることのつらさ・ 悩み(気持ち)	“つらい”1割(5人)	“つらい”3人	“つらい”2人
お世話につ いての相談経験	「ない」7割(27人)	「ない」5人	全員が「ない」
相談した人	家族、友達、学校の先生	家族、友達、学校の先生	—
学校以外で 相談できる 場所の認知	(設問なし)	「大府市役所(福祉総合相 談室など)」、「こども家庭セ ンター」、「大府市のLINE相 談窓口」、「児童(老人福祉) センター」(それぞれ1件) ※「どれも知らない」が6人	4人中3人が 「どれも知らない」
学校や周りの 大人にして もらいたいこと	「学校の勉強や受験勉強な ど学習のサポート」(7件) 「自由に使える時間がほし い」(6件) 「進路や就職など将来の相 談に乗ってほしい」、「家庭 への経済的(金銭面)な支 援」(それぞれ4件)	「自分の今の状況につ いて話を聞いてほしい」、 「進路や就職など将来の 相談に乗ってほしい」、 「家庭への経済的(金銭面) な支援」(それぞれ1件)	全員が「特にない」

3. 子どもの調査結果

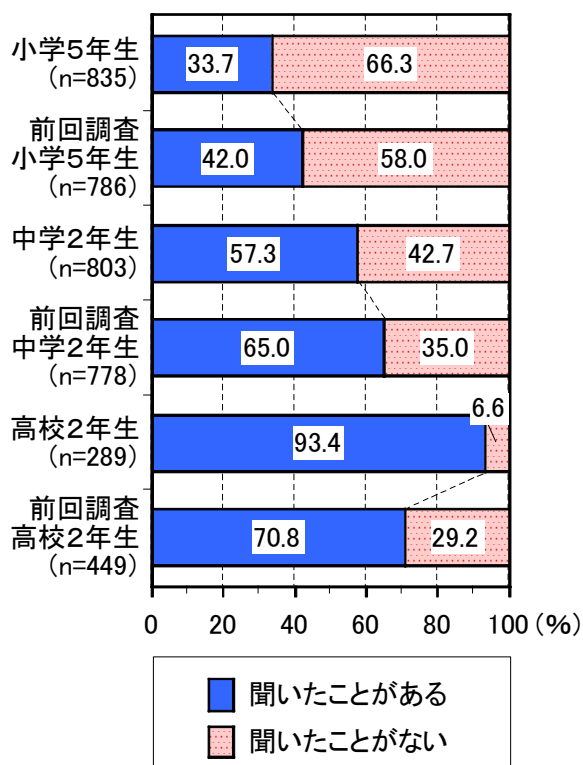
3-1 悩みや困りごとを相談しやすい方法

- ヤングケアラーの疑いがある子どもがお世話について相談経験は「ない」が多くあります。
- 悩みや困りごとを相談しやすい方法について尋ねたところ、すべての学年で「相手の顔をみながら直接相談できる方法」が最も高くなっており、学年が上がるにつれてその割合は高くなっています。
- 対面での相談を希望する人が半数を超える一方で、「自分の情報は知られずに、相談できる方法」も高くなっています。また、中学2年生と高校2年生では「インターネットやSNSを使って文字で相談する方法」も高くなっており、対面以外の相談方法への希望もあることがうかがえます。



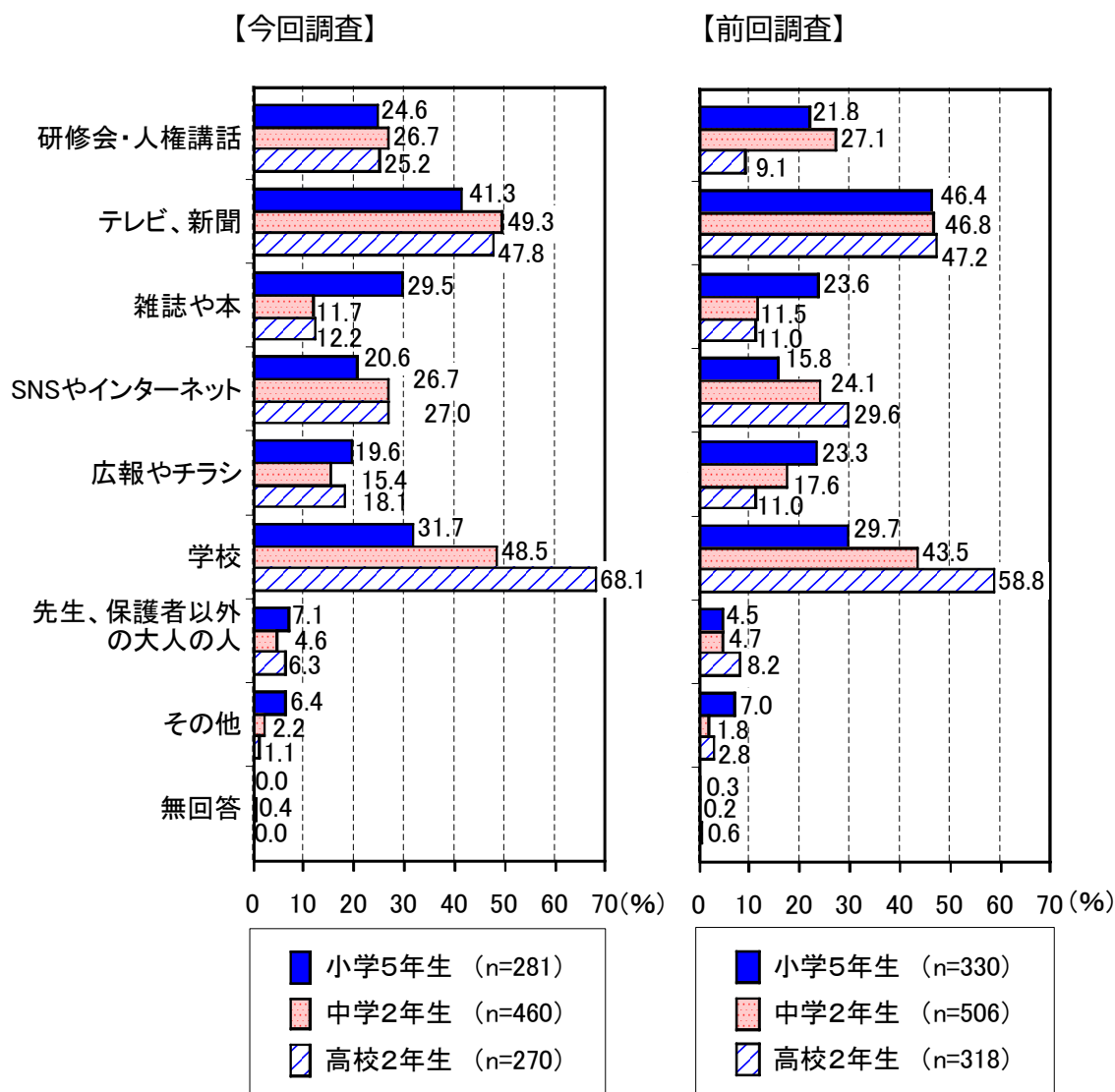
3-2 ヤングケアラーの言葉の認知度

- ヤングケアラーの言葉を「聞いたことがある」と回答した割合は、小学5年生では 33.7%、中学2年生では、57.3%、高校2年生では 93.4%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。
- 前回調査と比較をすると、「聞いたことがある」は、小学5年生では 8.3 ポイント、中学2年生では 7.7 ポイント減少していますが、高校2年生では 22.6 ポイントと大きく増加しています。
- 高校2年生は、ヤングケアラーについての理解もできる年齢となり、啓発や周知が広まるほど認知度も高くなることがうかがえます。一方で、小学5年生や中学2年生では、ヤングケアラーについて深く理解することが難しく、認知につながりづらいと考えられます。このため、子どもの発達段階に応じた方法で継続的に啓発・周知を行う必要があります。



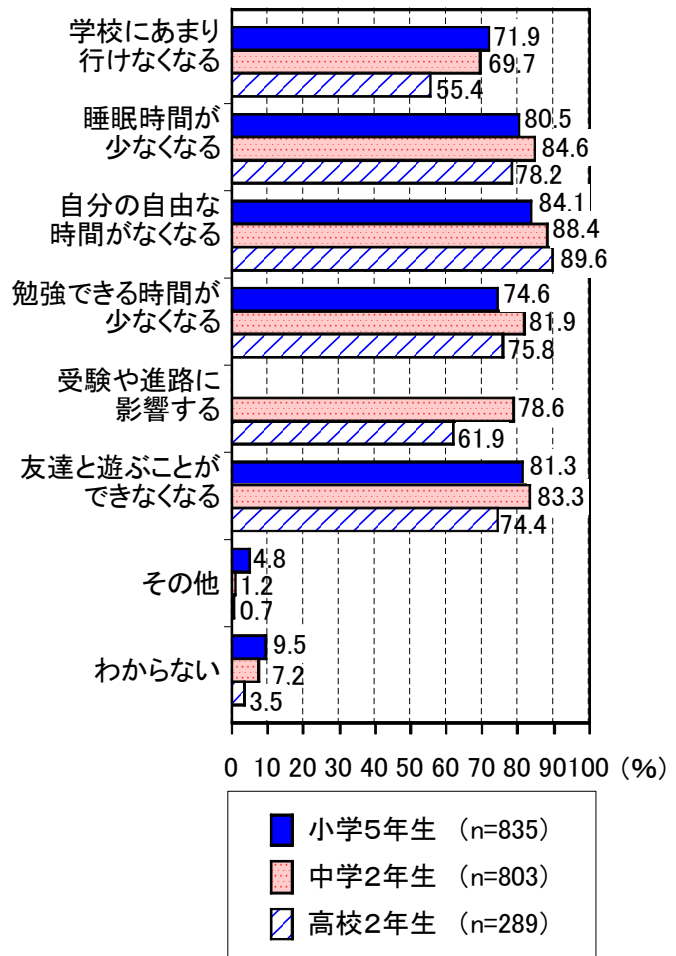
3-3 ヤングケアラーの言葉を知った媒体

- ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、小学5年生と中学2年生では、「テレビ、新聞」が最も高く、次いで「学校」となっています。小学5年生では「雑誌や本」「研修会・人権講話」、中学2年生では、「研修会・人権講話」「SNS やインターネット」が高くなっています。高校2年生では、「学校」が最も高く、次いで「テレビ、新聞」、「SNSやインターネット」となっています。学年ごとに知るきっかけとなる媒体に異なる部分もありますが、社会的に浸透し始めていることがうかがえます。
- 前回調査と比べて、小学5年生では「雑誌や本」や「SNSやインターネット」がやや増加しており、日常生活でヤングケアラーという言葉にふれる機会が増えたことがわかります。また、中学2年生では「学校」、高校2年生では「学校」と「研修会・人権講話」が増加しています。
- 「その他」の回答では、親や友だちからの話や、児童センターでの掲示物、市の福祉健康フェアなどがありました。言葉を知ったきっかけは覚えていないが、言葉自体に聞き覚えがある人もいます。



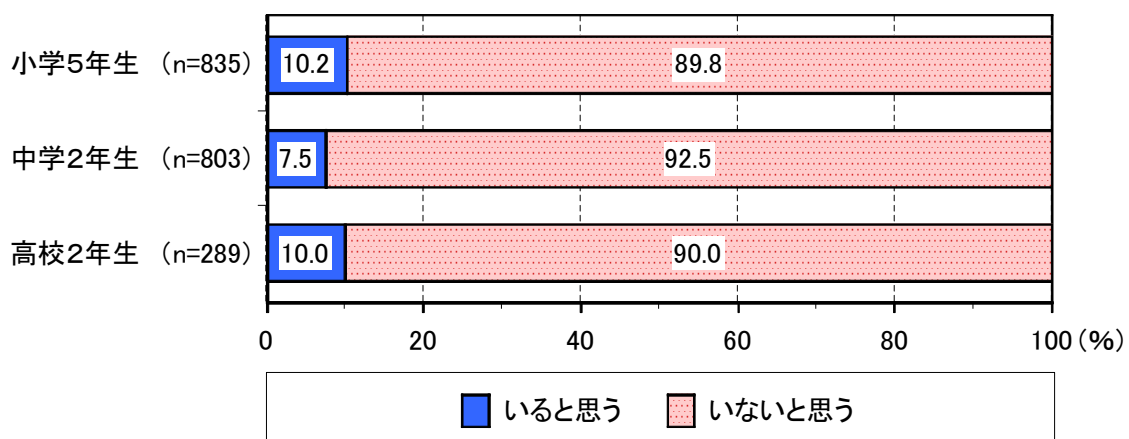
3-4 ヤングケアラーの生活への影響

- ヤングケアラーの状態における毎日の生活への影響について、小学5年生と中学2年生では、「その他」と「わからない」を除くすべての項目で7割以上と高くなっています。本アンケートは人権講話後に実施(桃陵高校と大府東高校を除く)したものであるため、講話の内容をよく理解している子どもが多いことがわかり、啓発・周知活動がヤングケアラーの理解促進につながっているといえます。
- 回答を詳しくみると、どの学年においても、「自分の自由な時間がなくなる」が最も高く、どの学年でも、「睡眠時間が少なくなる」も高くなっています。



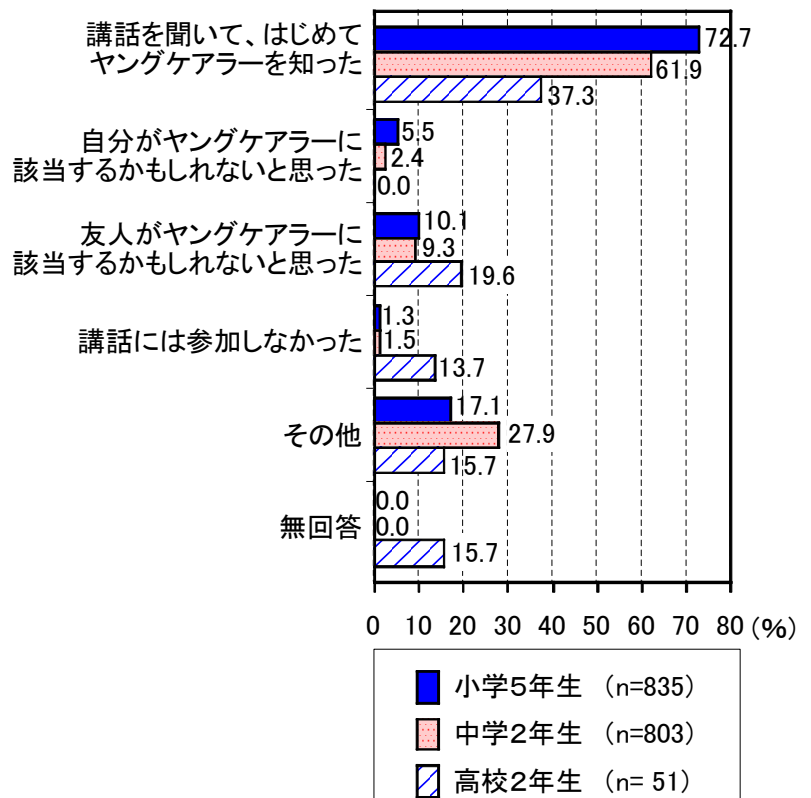
3-4 身近にヤングケアラーがいるか

- 身近にヤングケアラーにあてはまるようなクラスメイトや友達がいるかについて、「いると思う」はどの学年にも1割ありました。市の人権講話や啓発・周知を行うことはヤングケアラーの理解を促進するだけでなく、周囲が気付く可能性を増やすことにもつながります。



3-5 大府市による人権講話の感想

- 今回実施した「大府市の人権講話(ヤングケアラーに関する講座)」の感想については、すべての学年で、「講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った」が最も高く、小学5年生では72.7%、中学2年生では61.9%、高校2年生では37.3%となっています。
- また、「友人がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」や「自分がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」の回答がすべての学年でありました。
- ヤングケアラーの人権講話が周囲の気づきや当事者の自覚につながっているといえます。



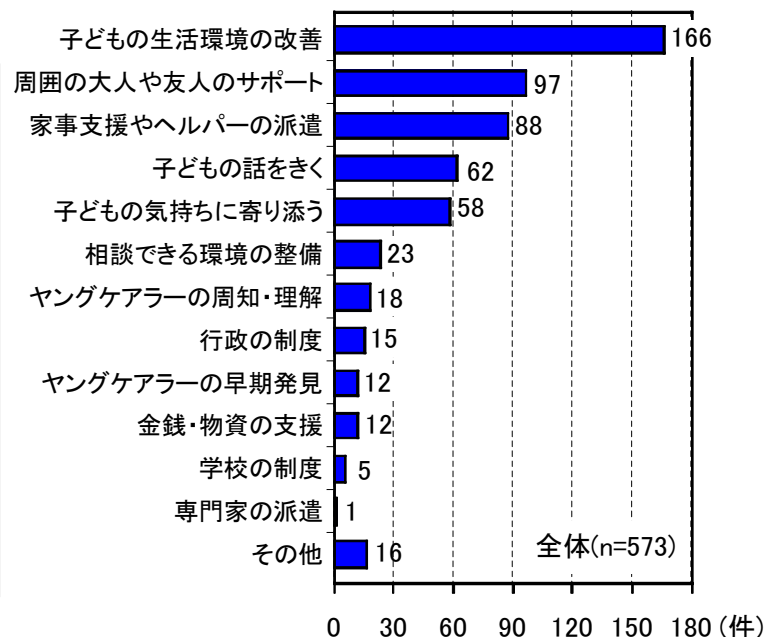
3-6 ヤングケアラーの子どもに対して大人にやってもらいたいこと

- ヤングケアラーの子どもに対して大人にやってもらいたいことについて、小学5年生では574件、中学2年生では519件、高校2年生では63件の記述式での回答がありました。
- 小学5年生と中学2年生では「子どもの生活環境の改善」や「周囲の大人や友人のサポート」等、生活環境や気持ちの面でのサポートに関する内容が多くありました。
- 一方で高校生は「金銭・物資の支援」が最も多く、経済的支援に関する内容が多くありました。

【小学5年生】

◆主な意見

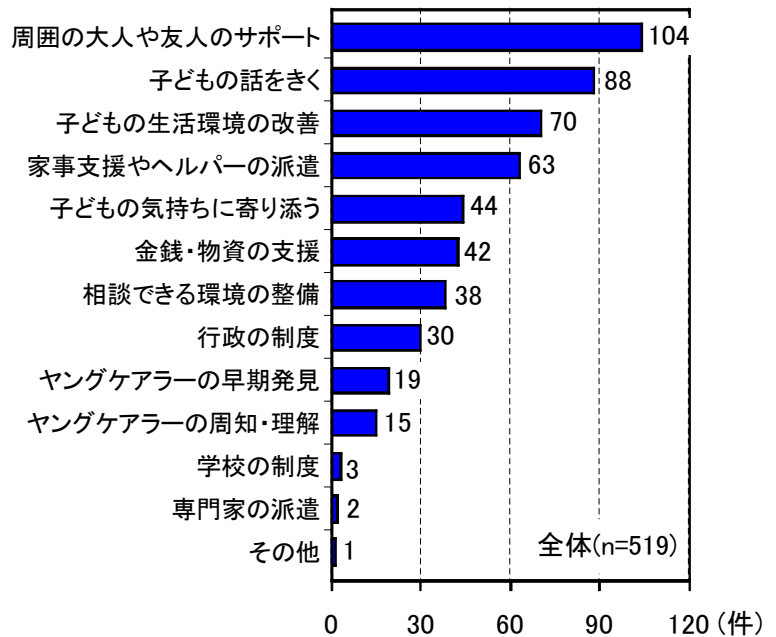
- ・自由時間と十分な勉強時間を与えてあげてほしい。
- ・ご近所さんや知り合いの大人が、ヤングケアラーの子をもっと助けてあげたらいいいのと思った。
- ・家事や弟、妹、介護が必要な人のお世話を手伝う。
- ・子どもに素直な意見を言ってもらいたいと思う。ネットの相談所などを使って、ヤングケアラーの悩みを聞く。



【中学2年生】

◆主な意見

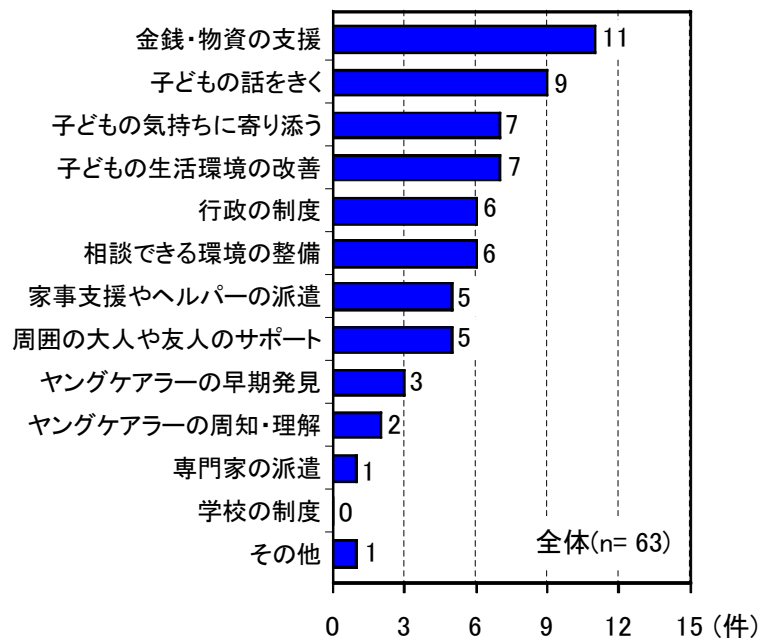
- ・ 周りにいる大人が見て見ぬふりをせずに子どもを助けるべきだと思う。子どもが学校にいる間などに家で面倒を見てくれるような人がいたらいいと思った。
- ・ 周りの大人が声をかけてあげること。
- ・ 子どもの自由な時間をつくってあげる。
- ・ 介護の支援を行う。介護士を雇う。週に数日様子を見に行きに行く。など



【高校2年生】

◆主な意見

- ・ 生活できる十分なお金と時間を設けること。
- ・ 大人がしっかりヤングケアラーの子の相談に耳を傾けること。
- ・ 精神的な支援。
- ・ 介護ホームや保育園などに世話をしてもらって、ヤングケアラーの負担を減らす。など



調査結果に関するお問い合わせは、
大府市役所 福祉部 福祉総合相談室(TEL0562-45-6219)まで